

# 巻頭言

## 知識と見識

徳島赤十字病院副院長 長江 浩朗

知識 ある事項について知っていること。また、その内容。

見識 物事の本質を見通すすぐれた判断力。また、ある物事についてのしっかりした考え、見方。

広辞苑で引いてみるとこのように書いてあります。知識とは言い方を変えると教科書、参考書を読む程度で得られる程度のものかも知れません。医療従事者は専門の教育を受けて初めてなれる職業ですのでみなさん十分な知識は持っていると思います。しかし、現場では知識を並べただけでは仕事は行き詰まることがあります。そこで必要なものを的確に選んで対応する判断力が要求されます。それが見識です。

見識を高めるためには何が必要でしょうか。まず経験です。自分が経験することによって知識が消化され見識となってゆきます。しかし自分で経験できることなどたかが知れています。そこで、まず同僚、上司に相談するのは良いでしょう。さらにそれ以上のものを求めるとすれば先人たちの経験に頼らなくてはなりません。文献検索です。

最近はインターネットで通り一遍のことは検索でき、それだけで日々の業務に不自由するようなことはないと思います。でも時には網羅的に調べることも必要ではないでしょうか。論文作成は良い機会だと思います。自分が書いた文章が永久に残り人目にさらされる訳です。中途半端な知識だけでは書けません。過去の論文をじっくり読み込むことになり、その課程で少しずつ見識が高まってゆきます。その積み重ねは業務の質の向上につながるでしょう。

こんなふうには書くと非常にレベルの高いものを求められているような気がして投稿のハードルが上がってしまうかもしれませんが、実際に論文を検索してみると1例の症例報告でも参考になることはたくさん書かれています。経験したことを十分に考察し形に残す習慣をつけてください。